5 群馬地区における路線バスの業務標準化事業 ｜ レシップ・永井運輸共同事業体

プロジェクト概要

深刻な乗務員不足とアナログ業務による現場負担の解消を目的に、群馬地区のバス事業者が、標準業務モデルの適用と統合データベースの導入を行う。標準仕様への準拠と既存車載器・システムとの円滑な連携により、書類作成やデータ入力作業を削減する。これにより省力的で持続可能な運行体制を構築し、地域交通の維持・強化を目指す。

課題

- 乗務員不足に加え、アナログ業務が長年にわたり残っていることで、乗務員や営業所事務員の負担が増大している。
- 投資余力の不足により、システム更新が進まず、古い業務形態が解消されていない。
- データの収集や統合がなされておらず、非効率となっている。

取組内容

1. 実態調査・要件定義
- 群馬地区の各バス事業者を対象に、乗務日報の作成と、勤務実績の集計に関わる業務範囲において、国土交通省の定める標準業務フローと、現行業務フローを比較し、差分を調査する。
- 標準業務モデルの適応範囲と、適応範囲外を決定し、業務フローの見直しを行う。

2. システム改修・導入
- 群馬地区のバス事業者が共通利用できることを前提とした、既存システムの改修、統合データベースの導入、乗務日報を自動化するシステムを構築し、永井運輸に先行導入する。また、その他のバス事業者に対して同システムの試用・検証を実施する。

3. 従業員研修・実証運行・効果測定
- 従業員に対し、システム導入に伴う研修を実施する。
- 実証運行を行い、乗務日報の作成自動化及び勤務実績の集計自動化による、オペレーション高度化の効果を測定する。

事業要件

- 標準業務モデルの導入によるサービス品質向上（標準化）

技術要件

- バス業務標準仕様書

効果

- 乗務員と営業所事務員の業務負担を自動化により大幅に軽減する。
- 群馬地区のバス事業者が共通で利用できるシステムを構築し、持続可能な省力運行体制を構築する。
- 標準モデル導入は、地域交通の維持・強化に繋がり、業界全体のDXを促進する。

事業実施自治体・エリア

前橋市

※将来的に、全国のバス事業者にご活用いただける標準化、汎用化されたシステム開発を目指す。

交通事業者

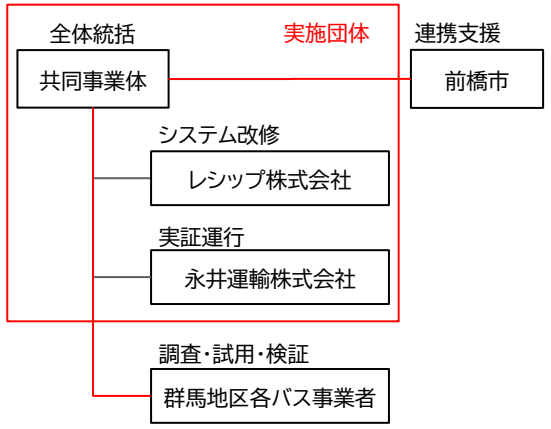
バス：永井運輸株式会社（先行導入）、群馬地区のその他バス事業者（システム試用・検証）

※本事業実施中もしくは終了後、群馬地区のその他バス事業者へ、共通仕様のシステム導入を目指す。

アプリ・システム等

- アプリ・システム：金庫精算システム、統合データベース
- データの取得方法： 車載器から運行実績データを取得する
- データの活用方法：乗務日報作成及び勤務実績集計を自動化する

座組



スケジュール

4～6月　実態調査・要件定義

7～10月　システム開発

11～12月　システム改修・導入
従業員研修、実証運行

1～2月　効果測定

Copyright © 2026 by MLIT. All rights